

FOR IMMEDIATE RELEASE

ジャパン・ソサエティーギャラリー
2021年3月再オープン 春期展覧会
「技が形になる時：日本の大工道具展」
2021年3月11日（木） - 7月11日（日）



Assembly of a bracket complex. Courtesy of Takenaka Carpentry Tools Museum

リスティング・インフォメーション

- 会場: ジャパン・ソサエティー(JS)ギャラリー
333 East 47th Street (Between First and Second Avenues)
New York, NY 10017
- 展覧会期間: 2021年3月11日(木)~7月11日(日)
- 開館時間: 木曜~日曜日: 午前11時~午後5時
休館 月曜~水曜日、主な祝祭日
個人メンバー及び高齢者優先時間: 木曜・金曜日 午前11時~正午
- 鑑賞料: 一般12ドル、シニア・学生・医療従事者10ドル
JS 会員・16歳以下・障がい者および付添者 無料
- 「オープン記念鑑賞料無料 TAKENAKA CORPORATION 月間」
3月11日(木)から3月28日(日)まで鑑賞料無料
- チケット予約・購入: 鑑賞チケットは、オンライン事前予約制です。JS ウェブサイトでご予約
ご購入ください。詳しくは www.japansociety.org をご覧ください。

ジャパン・ソサエティー(JS)・ギャラリーは、昨年3月より Covid-19 のパンデミックを受け一時休館しておりましたが、2021年3月11日「[技が形になる時:日本の大工道具/When Practice Becomes Form: Carpentry Tools from Japan](#)」展の開催より再オープンいたします。本展は日本の伝統的な木造建築を創り出すのに使われてきた多種多様な大工道具を紹介し、日本の建造物の優美な「形」が、どのような道具によって、また工程によって生み出されてきたのかに光を当てます。

当ソサエティーの本部ビル建築は、1971年の竣工から今年50周年を迎えます。設計は日本建築の伝統とモダニズムを融合を図った建築家として知られる吉村順三氏(1908-1997)。京都の町屋にみられる格子とアーチ型の柵(犬矢来)といった意匠をスチールやコンクリートで構成するなど、日本の伝統とモダニズムの融合を図った当ソサエティーの建築は、2011年ニューヨーク市のランドマーク保存委員会により市の歴史的建造物に指定されました。この記念年に開催する本展は、日本の大工職人の長年の経験、幅広い知識、高度に磨かれた技といった無形の叡智が、寺社建築や茶室、橋など日本の建築文化の傑作へとどのように結実していったか、そのためにどのような道具が使われ、形の生まれる過程を支えてきたか紐解いていきます。

大工職人の仕事は棟梁から弟子へと何世代にもわたり引き継がれてきました。それは精緻な職人技術にはじまり、木という日本の風土に根ざした自然素材を使うにあたり地域の環境や伐り出される木材に関する広範囲な知識、修理や修復を繰り返し未来の職人の手に委ね建築を再生させるサステナビリティの哲学まで幅広いものです。大工道具に加え、図面、原寸大の型板、また組み上げる前の分解された木組模型は、建造物の形に秘められた技を紐解き明らかにしてくれます。

本展の展示デザイン監修は次世代の日本建築界をリードする建築家・藤本壮介氏が担います。建築を自然と対峙する人工物としてではなく、自然と融合し共存する関係性のなかで捉える藤本氏の視点を織り込んだ展示構成によって、日本のクラフトマンシップの伝統と現代を繋ぎ、「道具」、「技」、「形」の繋がりを紹介する機会となることを本展は目指します。「ジャパン・ソサエティーは日米文化を繋ぐプラットフォームとして、過去と現在の接点であり続けてきました。伝統的な日本の職人技が現代建築家藤本壮介氏の展示デザインによる新しい光のもとで紹介する本展は、日本の大工の伝統と歴史を知り、現代社会に求められる新しい気づきを得る機会でもあります。」と、ジャパン・ソサエティーのギャラリーディレクターである神谷幸江は語ります。



Selection of broadaxes and felling/lumberjack's axes, c. 20th century, and measuring tools. Courtesy of Takenaka Carpentry Tools Museum

展覧会オープンとなる2021年3月11日は、甚大な被害をもたらした東日本大震災からちょうど10年の節目となります。災害の多い日本の地で、繰り返される破壊を乗り越え復興を支えてきたのはこうしたクラフトマンシップの担い手たちの創造力、再生に向けた努力であり、その持続可能性は現在の私たちに勇気付けてくれることでしょう。

『技が形になる時：日本の大工道具展』は、竹中大工道具館の協力を得てジャパン・ソサエティーが主催し実現しました。

展示デザイン監修：藤本壮介

ローカル・アーキテクト協力：ポピュラー・アーキテクチャー（ブルックリン）

* * *

<鑑賞料無料 TAKENAKA CORPORATION 月間>

当ソサエティーの再オープンを記念し、世代を超えて長い時間引き継がれてきた日本の建築文化・クラフトマンシップをより多くの皆さんに本展を通じ鑑賞してもらえるよう、3月は展覧会を無料開放いたします。（オンライン事前予約制。入場者数制限があります。）協賛：竹中工務店

関連プログラム

ハンス・オン・ワークショップ、ファミリー・プログラム、レクチャー、バーチャル・ギャラリー・ツアー等、展覧会のテーマをより深く、楽しく体験できる数々の関連プログラムを開催します。*プログラム内容や時間は変更される可能性があります。最新情報の更新と詳細については JS のウェブサイト

japansociety.org/gallery をご確認ください。

大工道具デモンストレーション（オンライン）

様々な伝統的大工道具の使い方に焦点を当てたデモンストレーションを複数回、無料でお届けします。アメリカ削ろう会（Kezurou-kai USA）の協力のもと、各回で異なった道具と技術を紹介します。無料。

大工道具ワークショップ（オンライン）

2021年4月

日本の伝統的大工技術の実演を見ながら、棟梁との2時間のワークショップで道具の使い方の知恵を学びましょう。協力：アメリカ削ろう会（Kezurou-kai USA）

一般 50ドル/JS 会員、学生、シニア 40ドル。* 展覧会の入場料込み

ファミリー・ワークショップ（オンライン）

2021年6月6日（日）午前1時半

家庭にある材料で、本展覧会にインスピレーションを得た空間を構築してみましょ。5歳から11歳のお子様とその保護者様向けの、教育的ワークショップです。（詳細後日）

一般 30ドル/JS 会員、学生、シニア 24ドル（20家族限定）。* 展覧会の鑑賞料2名分込み

藤本壮介講演会（オンライン）

2021年6月24日（木）

本展の展示デザインを担った建築家の藤本壮介氏によるこの講演では、現代建築と伝統的職人技とのつながりや展覧会デザインについてお話しいただきます。

一般 12ドル/学生、シニア 10ドル/JS 会員は無料。* 展覧会の鑑賞料込み

ギャラリー・ツアー（オンライン）

4月1日～・日時応相談。開催日の2週間前までにご予約ください。

ジャパン・ソサエティーのガイドによる3D 映像体験型のオンライン・ツアーで、本展をお楽しみください。

一律（最大40人までのグループ）150ドル /シニア、大学生 100ドル。

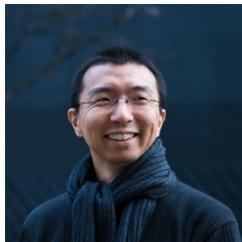
学校向けギャラリー・ツアーとアクティビティ(オンライン)

4月1日～。日時応相談。開催日の2週間前までにご予約ください。

K-12 の生徒を対象にした、パーソナルなつながりを大切に、質問や関連アクティビティなどを含んだ専門ガイドによるオンライン・ツアーです。

デジタル・カタログ

日本の大工道具と職人技についてもっと詳しく学べる、デジタル・カタログを展覧会に合わせて発行します。無料で誰でもダウンロード可能。ブルックリン在住のアーティスト、ネイサン・アントリクが日本の大工道具を描き下ろしました。



【藤本壮介】(ふじもと そうすけ)1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科を卒業後、藤本壮介建築設計事務所を2000年に設立する。2014年フランス・モンペリエ国際コンペティションでの一等賞をはじめ、数々の国際的な賞を受賞。2019年には津田塾大学小平キャンパス設立計画の筆頭建築家に選ばれた。主な業績には最年少の建築家として請け負ったロンドンのサーペンタインギャラリーの夏季別館(2013年)、東京のNA宅(2012年)、武蔵野美術大学美術館・図書館(2010年)などが挙げられる。藤本はまた、2011年の津波で破壊された家屋のための新しい住宅計画により2012年にヴェネツィア・ビエンナーレの金獅子賞を受賞した日本チームの一員である。直近では2025年の大阪世界万博のサイト・プロデューサーに指名された。

【ポピュラー・アーキテクチャー】(Popular Architecture)ブルックリンを拠点に活動する建築設計事務所、ポピュラー・アーキテクチャーはシンプルさと革新性のかけあわせを得意とするが、建築のマスタープランから内装、工業製品まで多様な規模のプロジェクトを手掛け、ケーシー・マック(RA, LEED AP)がディレクターを務める。マックはコロンビア大学で建築学修士号を取得後、香港とニューヨークのメトロポリタン建築設計事務所では修業し、ニューヨーク工科大学で都市計画の、パーソンズ美術大学で省エネルギー住宅パッシブハウスの授業を担当した。現在、グラハム・ファンデーシヨンの芸術研究支援費を得て Hatje Cantz Verlag より 2021 年に出版予定の著書 *Digesting Metabolism: Artificial Land in Japan 1954-2202* の執筆中。

【吉村順三】(よしむらじゅんぞう)1908年東京生まれ、1997年没。東京美術学校(現在の東京藝術大学)建築学科卒業。1931年にチェコ系アメリカ人の建築家アントニン・レーモンド(1888-1976年)の東京事務所に入る。吉村は約237軒もの住宅だけでなく、愛知県立芸術大学(1966-1971年)や奈良県立美術館(1972年)、長野県の八ヶ岳高原音楽堂(1988年)などの日本の文化施設を手掛けた。生涯の多くを母校での後進教育に費やし、1995年には総理大臣より文化功労者と認められる。その他の主要な作品には、ニューヨーク近代美術館の中庭に建てられて後にフィラデルフィアに移築された日本の伝統的家屋の松風荘(1954年)や1955年に前川國男、坂倉準三と共同設計した東京の国際文化会

館、また 1977 年の東京ノルウェー領事館などがある。

* * *

JS ギャラリーについて

当ギャラリーは日本に関わる美術を古典から現代まで幅広く紹介しながら、日本と東アジアを包括する新しい文化的視点を切り開いています。1971 年以来、仏教美術、室町・桃山時代の屏風絵、近世絵画、浮世絵、コンテンポラリー・アートに至る広範囲にわたる展覧会を企画開催し、展覧会図録の出版、講演会の開催とともに、さまざまな分野の美術を紹介しています。

JS について

JS は、1907 年(明治 40 年)にニューヨークに設立された米国の民間非営利団体です。全米最大の日米交流団体として、両国間の相互理解と友好関係を促進するため、多岐に渡る活動を 1 世紀以上にわたって続けています。その活動範囲は、政治・経済、芸術・文化、日本語教育などと幅広く、展覧会、舞台公演、映画上映会、講演、試食・試飲会、シンポジウム、国際会議、セミナー、ワークショップ、人物交流などを通じて、グローバルな視点から日本理解を促すと同時に、日米関係を深く考察する機会を提供しています。今日、JS は日米の個人・法人会員をはじめ、政財界のリーダー、アーティスト、教育関係者、学生など様々な参加者を対象に年間約 200 件のプログラムを提供しています。

住所 333 East 47th Street (1 Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017

最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 / ウェブサイト www.japansociety.org

Facebook <https://www.facebook.com/japansociety>

Instagram @japansociety and #japansociety #JSCarpentry

Twitter @japansociety

最新の情報、オンラインアクセスについての情報、チケットまたは予約情報につきましては、ジャパン・ソサエティーのウェブサイト www.japansociety.org をご参照ください。その他のお問合せ一般は 212-832-1155 までお電話ください。

「技が形になる時: 日本の大工道具展」は以下の諸財団・基金、企業、及び個人よりご支援・協賛をいただいております。

When Practice Becomes Form: Carpentry Tools from Japan is supported by Takenaka Carpentry Tools Museum, Japan.



Additional funds are generously provided by TAKENAKA CORPORATION, the New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council, and the E. Rhodes and Leona B. Carpenter Foundation.



Exhibitions and Arts & Culture Lecture Programs at Japan Society are made possible, in part, by the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund, the Mary Griggs Burke Endowment Fund established by the Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation, Masako H. Shinn, Raphael and Jane Bernstein, Friends of the Gallery, and an anonymous donor. Support for Arts &

Culture Lecture Programs is provided, in part, by the Sandy Heck Lecture Fund.

Transportation assistance is provided by Japan Airlines, the exclusive Japanese airline sponsor of Gallery.



###